



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

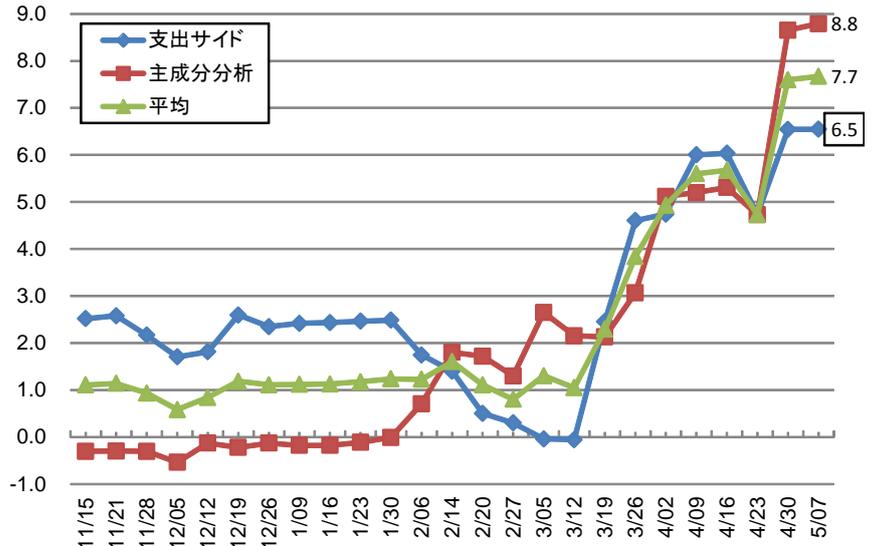
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.co.jp

# 日本経済(週次)予測(2012年5月7日)

## ポイント

- ▶今週の CQM は、1-3 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+6.5%と予測。4/23 の予測(+4.7%)から再び上方修正されている。
- ▶データ更新により、1-3 月期の民間最終消費支出、民間住宅、民間企業設備及び民間企業在庫品増減の予測値が修正された。
- ▶1-3 月期の全世帯実質消費支出は前期比+0.9%増加した。同期の小売業販売額も前期比+4.0%増加した。閏年効果もあるが 1-3 月期の民間消費は非常に好調である。
- ▶民間住宅の基礎データである建築工事費予定額(居住用)は、1-3 月期に前期比+6.1%増加し、2 期ぶりのプラス。ただ執行パターンを考慮すると民間住宅はさほど強くない。
- ▶1-3 月期の資本財出荷指数は前期比-2.0%と 3 期ぶりのマイナスとなった。1-3 月期の民間企業設備は期待できない。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q1 (%、前期比年率換算)



## <好調 1-3 月期の日本経済、民間最終消費支出と公的固定資本形成が押し上げ>

ゴールデン・ウィークを含む過去 2 週(4/23-5/4)においては、4 月の財政資金対民間収支、乗用車新車販売台数、3 月の労働力調査、一般職業紹介状況、毎月勤労統計、鉱工業生産指数、家計調査報告、商業販売統計、新設住宅着工、企業向けサービス価格指数、製造業部門投入産出物価指数、全国消費者物価指数、2 月の全産業活動指数及び建設工事費デフレーターが更新された。

3 月の全世帯実質消費支出は前年比+3.4%増加し 2 ヶ月連続のプラス。季節調整値は前月比-0.1%減少し 2 ヶ月ぶりのマイナスとなったが、1-3 月期は前期比+0.9%増加した。3 期連続のプラス。3 月の小売業販売額は前年比+10.3%増加し 4 ヶ月連続のプラス。季節調整値は前月比-1.2%減少し 4 ヶ月ぶりのマイナスを記録したが、1-3 月期は前期比+4.0%増加し 2 期ぶりのプラス。閏年効果もあるが 1-3 月期の民間消費は非常に好調である。

民間住宅投資の基礎データである建築工事費予定額(居住用)は、3 月に前年比+3.7%増加し 2 ヶ月連続のプラス。季節調整値は前月比-11.6%減少し 3 ヶ月ぶりのマイナスとなったが、1-3 月期は前期比+6.1%増加し、2 期ぶりのプラス。ただ執行パターンを考慮すると同期の民間住宅はさほど強くない。

3 月の鉱工業生産指数は前月比+1.0%上昇し 2 ヶ月ぶりのプラス。この結果、1-3 月期は前期比+1.2%上昇し 3 期連続の拡大。財別に見れば、3 月の資本財出荷指数は前月比-2.8%低下し 4 ヶ月連続のマイナス。この結果、1-3 月期は前期比-2.0%と 3 期ぶりのマイナスとなった。1-3 月期の民間企業設備は期待できない。

今週(5/7)の CQM(支出サイド)は、1-3 月期の実質 GDP 成長率を、民間最終消費支出と公的固定資本形成の貢献により内需が引き続き拡大し、純輸出も反転拡大するため前期比年率+6.5%と予測する。4 月 23 日の予測では+4.7%に下方修正されたが再び 6%台に上方修正された。1-3 月期日本経済は引き続きかなりの高成長が期待できる。この結果、2011 年度の実質 GDP 成長率は 0.0%(前回予測：-0.1%)となろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550